京都大学人文科学研究所共同研究

ブラフマニズムとヒンドゥイズム

南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

第7回
シンポジウム

古代・中世インドの
社会と宗教

――「聖典」の諸相――

パーニニ文法学における聖典と言語／尾園 絢一

アーラニヤカ文献の śānti マントラ ―「聖典」の形成過程を考える／梶原 三恵子

無遮会のおこり ― 諸聖典の比較から見えてくること／手嶋 英貴

ミーマーンサーの王権論とその偏向 ― Rājasūyaの祭主資格について／吉水 清孝

インド密教における聖典と注釈文献／菊谷 竜太

マドゥスーダナ・サラスヴァティーの『バーガヴァタ註』における
『バーガヴァタ・プラーナ』の目的と kāṇḍatraya／眞鍋 智裕

「スダナとマノーハラー」物語の「証拠の指輪」― 古代日本への道を考える／中村 史

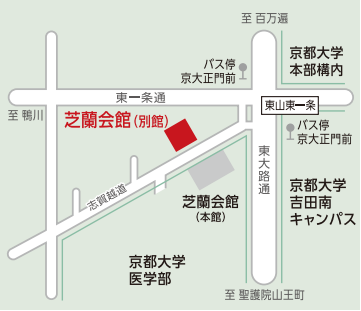
ヴァードゥーラ学派とヴェーダ祭式の聖典／井狩 彌介

参加無料
事前申込不要

2020.
2/23日

京都大学
芝蘭会館［別館］研修室2
10:00～17:20

お問い合わせ
メール：fujii@zinbun.kyoto-u.ac.jp（藤井）
h-teshima@po.kbu.ac.jp（手嶋）



主 催：京都大学人文科学研究所共同研究 「ブラフマニズムとヒンドゥイズム―南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」（班長・藤井正人、副班長・手嶋英貴）
科学研究費補助金基盤研究B「ヴェーダからポスト・ヴェーダの宗教・文化の共通基盤と重層性の研究」（研究代表者・梶原三恵子 17H02268）

ブラフマニズムとヒンドゥイズム

京都大学人文科学研究所共同研究
南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

第7回 シンポジウム

古代・中世インドの社会と宗教

―「聖典」の諸相―

事前申込不要・参加無料

2020年
2月23日(日) 京都大学

芝蘭会館［別館］ 研修室2

http://www.shirankai.or.jp/facilities/access/index.html
TEL: 075-771-0958

アクセス: 京大正門前（市バス:31・201・206 系統） 徒歩2分
京阪電車 出町柳駅（2・4 出口） 徒歩15分

タイムスケジュール

10:00	開　会
10:10～	講　演
10:10-10:50	尾園 絢一
10:50-11:30	梶原 三恵子
11:30-12:10	手嶋 英貴
12:10-13:20	昼休憩
13:20-14:00	吉水 清孝
14:00-14:40	菊谷 竜太
14:40-15:20	眞鍋 智裕
15:20-15:30	小休憩
15:30-16:10	中村 史
16:10-16:50	井狩 彌介
16:50-17:20	ディスカッション
17:20	閉　会

パーニニ文法学における聖典と言語

尾園 絢一

パーニニは、「聖典」即ちヴェーダの言語を、当時の標準ではないが、正しい言葉と認める。バラモンたち、そして文法学者たちにとって「聖典」とは何を指すのかを考察する。

アーラニヤカ文献のśāntiマントラ ―「聖典」の形成過程を考える

梶原 三恵子

アーラニヤカの各章には、学習時のマントラ（śānti）が付されている。内容は本文とは無関係だが、本文の一部になっているものもある。śānti の諸例から、「聖典」の形成過程を考える。

無遮会のおこり ―諸聖典の比較から見えてくること

手嶋 英貴

仏典には「無遮会」という祭の名がよく見られる。飲食・衣服等を人々に施す慈善の大祭といわれる。その起源と内実の変化をヴェーダや『マハーバーラタ』など多様な聖典との比較からさぐる。

ミーマーンサーの王権論とその偏向 ―Rājasūyaの祭主資格について

吉水 清孝

ミーマーンサーでは非クシャトリヤに王の灌頂儀礼 Rājasūya の祭主資格を認めない。これに対する疑問を端緒として、ヴェーダ文献 Rājasūya 章での kṣatra の意味を検討し、祭官バラモンと王の関係を再考する。

インド密教における聖典と注釈文献

菊谷 竜太

アバヤーカラグプタ（11-12世紀頃）による『サンプトードバヴァタントラ』への百科事典的注釈『アームナーヤマンジャリー』の事例をもとにインド密教における釈タントラと注釈文献との関係を考察する。

マドゥスーダナ・サラスヴァティーの『バーガヴァタ註』における『バーガヴァタ・プラーナ』の目的とkāṇḍatraya

眞鍋 智裕

16世紀のアドヴァイタ学派の学匠マドゥスーダナ・サラスヴァティーが、『バーガヴァタ・プラーナ』をどのような典籍として捉え、バラモン伝統派思想のなかに位置づけたのかを考察する。

「スダナとマノーハラー」物語の「証拠の指輪」 ―古代日本への道を考える

中村 史

古代インド発祥の「スダナとマノーハラー」物語にみる「証拠の指輪」モチーフが、日本・奈良時代の『古事記』「海幸山幸」神話に流れ込んでいる可能性とその経路を追究する。

ヴァードゥーラ学派とヴェーダ祭式の聖典

井狩 彌介

ヴェーダ祭式の展開史は、伝承が聖典として固定された文献の系譜を辿ることで大要が知られる。黒ヤジュルヴェーダ諸派のうちヴァードゥーラ学派は、タイッティリーヤ派の内部分派として、特異な聖典意識を示す。新出写本にもとづき、この学派の伝承文献の特徴を考える。

お問い合わせ

fujii@zinbun.kyoto-u.ac.jp（藤井）
h-teshima@po.kbu.ac.jp（手嶋）

主　催

京都大学人文科学研究所共同研究（班長・藤井正人、副班長・手嶋英貴）
「ブラフマニズムとヒンドゥイズム
― 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」

科学研究費補助金基盤研究（B）（代表・梶原三恵子 17H02268）
「ヴェーダからポスト・ヴェーダの
宗教・文化の共通基盤と重層性の研究」